

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第1区分
 【発行日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【公表番号】特表2008-502919(P2008-502919A)
 【公表日】平成20年1月31日(2008.1.31)
 【年通号数】公開・登録公報2008-004
 【出願番号】特願2007-527636(P2007-527636)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 35/08 (2006.01)
 B 0 1 J 19/00 (2006.01)
 G 0 1 N 37/00 (2006.01)
 B 0 1 J 19/08 (2006.01)
 C 1 2 M 1/34 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 35/08 A
 B 0 1 J 19/00 3 2 1
 G 0 1 N 37/00 1 0 1
 B 0 1 J 19/08 D
 C 1 2 M 1/34 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月6日(2008.6.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 約2 mL未満の体積と検出領域とを有している反応サイト容器へと、液体サンプルを導入する行為、

(b) 液体を混合するため、前記容器において自由に可動であって前記検出領域へと移動することができるミキサを、前記液体サンプル内で移動させる行為、

(c) 前記ミキサを前記検出領域の外へと移動させる行為、および

(d) 前記検出領域に存在する液体の特性を検出する行為

を含んでいる、方法。

【請求項2】

前記反応サイト容器が、少なくとも1つの生きている細胞を維持するように構成および配置されている、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

気体を通すが液体の蒸気を通さない第1の膜が、前記容器の第1の壁を定めている、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記ミキサが固体である、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記ミキサが気体である、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記ミキサが、前記液体サンプルに対して不混和性である液体である、請求項1に記載の方法。

【請求項 7】

前記ミキサの密度が、前記液体サンプルの平均密度から少なくとも 1 % だけ相違している、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

(d) が、前記反応サイト容器が実質的に水平な位置にある状態で、液体の特性を検出することを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

(d) が、前記反応サイト容器が実質的に垂直な位置にある状態で、液体の特性を検出することを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

(c) が、前記ミキサが前記検出領域の外の領域へと移動するように前記容器を向けることを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 11】

重力が、前記ミキサを前記検出領域の外の領域へと移動させる、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

浮力が、前記ミキサを前記検出領域の外の領域へと移動させる、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 13】

遠心力が、前記ミキサを前記検出領域の外の領域へと移動させる、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 14】

(c) が、前記ミキサに前記検出領域の外の領域へと移動するように力を加えることを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 15】

(c) が、前記ミキサに磁力を加えることを含んでいる、請求項 14 に記載の方法。

【請求項 16】

(c) が、前記ミキサが前記検出領域の外の領域へと移動するように前記容器を向けることを含んでいる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 17】

前記気体を前記検出領域の外へと移動させることが、前記気体を前記反応サイト容器と流体連絡している所定の気体領域へと移動させることを含んでいる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 18】

(c) が、前記ミキサの位置を割り出すことを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 19】

(d) が、前記ミキサの位置を除く領域において液体の特性を検出することを含んでいる、請求項 1 8 に記載の方法。

【請求項 20】

(c) が、前記ミキサが前記検出領域内に存在するか否かを判断することをさらに含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 21】

(b) が、前記容器を通過していない軸を中心として前記容器を回転させることを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 22】

前記容器を回転させることが、当該容器が取り付けられている装置を回転させることを含んでいる、請求項 2 1 に記載の方法。

【請求項 23】

前記容器が、実質的に半径方向の向きで前記装置に取り付けられている、請求項 2 2 に記載の方法。

【請求項 2 4】

前記容器が、実質的に縦方向の向きで前記装置に取り付けられている、請求項 2 2 に記載の方法。

【請求項 2 5】

前記容器が、実質的に水平方向の向きで前記装置に取り付けられている、請求項 2 2 に記載の方法。

【請求項 2 6】

前記液体サンプルが、溶解した種を含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 2 7】

前記液体サンプルが、浮遊した種を含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 2 8】

前記浮遊した種が、細胞を含んでいる、請求項 2 7 に記載の方法。

【請求項 2 9】

化学、生物学、または生化学のリアクタ・チップ上に収容された複数のリアクタについて (a) ~ (d) を実行することをさらに含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3 0】

異なる不混和性の物質の存在下において前記検出領域に向かう物質の移動を妨げることをさらに含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3 1】

(e) 前記気体の前記検出領域への移動を妨げる行為をさらに含んでいる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 3 2】

(e) が、前記容器内に物理的なバリアを配置することを含んでいる、請求項 3 1 に記載の方法。

【請求項 3 3】

(b) が、前記容器を通過している軸を中心として前記容器を回転させることを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3 4】

(d) が、前記反応サイト容器を水平に対してわずかな角度に保持することを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3 5】

(c) が、前記ミキサが前記検出領域の外の領域へと移動するように前記容器を向けることを含んでいる、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 3 6】

(b) が、前記容器を回転させることを含んでいる、請求項 1 に記載の方法。